



No.156

2023.5.26

兵庫県立神戸商業高校

図書館

新着図書紹介

中間考査を終えて

中間考査が終わった今、本を読んで一息つきませんか？図書館には本以外にも雑誌やコミックもあります。気に入った一冊でリフレッシュしてください。

本を借りたままになっていませんか？
必ず返却してください。



『成瀬は天下を取りに行く』 宮島 未奈【著】

「島崎、わたしはこの夏を西武に捧げようと思う。中2の夏休みの始まりに、幼馴染の成瀬がまた変なことを言い出した。コロナ禍、閉店を控える西武大津店に毎日通い、中継に映るといのだが……。各界から絶賛の声続々、いまだかつてない青春小説！

『人はなぜ物を欲しがるのか—私たちが支配する「所有」という概念』 フッド、ブルース【著】

所有という行為と「自分のものにしたい」という所有欲は、人間が生きていくうえで必ずかかわってくる。心理学、生物学、社会学、行動経済学など多様な分野の知見をもとに、私たちの人生を支配する「所有」というものの正体を探る。

『マシカクショートショート 開けてはいけない！』 黒 史郎/染谷 果子/波摘【著】

正方形サイズが目を引き惹きつける、新感覚ホラー短編集！「開けてはいけない」ものに出会った15人のこわ〜いお話をたっぷり収録。

『父から娘への7つのおとぎ話』

ブロック、アマンダ【著】

この本がきっと、わたしの父のもとへ導いてくれる。レベッカは、7つの奇妙なおとぎ話が収められた本を手がかりに幼いころに家を出た父親を探す。切なくも心温まる家族の物語！

『テムズとともに——英国の二年間』

徳仁親王【著】

天皇陛下、青春時代の清新な英国留学記 新装復刊。1983年から約2年間を過ごされたオックスフォード大学での日常生活や研究生生活、音楽活動、ご学友との交流、登山やテニスなどのスポーツ、英国内外への旅……。内側から英国を眺め、外にあって日本を見つめ直した「何ものにも代えがたい貴重な経験」。

『上海灯蛾』

上田 早夕里【著】

1934年上海。「魔都」と呼ばれるほど繁栄と悪徳を誇ったこの地に成功を夢見て渡ってきた日本人の青年吾郷次郎は阿片の売買を通じて上海の裏社会に深く踏み入っていく。



『上方落語ひとくち絵本』

もりた はじめ【編】/はやかわ ひろただ【絵】

15演目の上方落語が、おとなの絵本に。どれもコンパクトに2000字以内でまとめました。ひとつの落語がひとくちで読めるというのが本のタイトルの由来です。華やかだったり、間抜けだったり、「そんなアホな！」という関西ギャグの源流が上方落語にあることが発見でき、読む上方落語の世界へご案内します。



『マイ・リトル・ヒーロー』 冲方 丁【著】

「交通事故に遭い、意識不明となった息子からゲーム内に届いたメッセージ。息子を救うため、父はeスポーツの世界大会を目指す。ゲームを通して成長し、繋がっていく、新しい家族の物語。

『恋とそれとあと全部』

住野 よる【著】

片思い男子とちょっと気にしすぎな女子。二人は友達だけど、違う生き物。一緒に過ごす、夏の特別な四日間。

『学芸員の観察日記—ミュージアムのうらがわ』

滝登 くらげ【著】

山奥博物館で働く仲間たちは今日もお仕事に奮闘中！SNSで連載中。学芸員ならではの悲喜こもごもを描くほのぼのの四コマ。学芸員の仕事かわかるコラム収録！書き下ろし、学芸員の就活日記。

『マーケティングを学んだけれど、どう使えばいいかわからない人へ』

西口 一希【著】

P&G、ロート製薬、ロクシタン、スマートニュースなどで数々の実績を出してきた著者が明かす、これ以上わかりやすくできないWHOとWHATのシンプルな原則。そもそもの定義が曖昧、たくさんあるマーケティング用語、「〇〇マーケティング」など時代とともに増え続ける方法論や手法。「マーケティングの樹海」を抜け出すためのコンパスとなる本。

【その他の新着図書】

街とその不確かな壁	村上 春樹	文学
人に聞けない大人の言葉づかい	外山 滋比古	語学

ワンダーランド急行	荻原 浩	文学
花に埋もれる	彩瀬 まる	文学
神無島のウラ	あさの あつこ	文学
三流シェフ	三國 清三	伝記
朝星夜星	朝井 まかて	文学
上方落語ひとくち絵本第2集 小倉船一竜宮界は竜の都	もりた はじめ【編】/ はやかわ ひろただ【絵】	文学
キドナブキディングー青色サヴァンと 戯言遣いの娘	西尾 維新	文学
朝日新聞ウェブ記者のスマホで「読まれる」「つながる」文章術	奥山 晶二郎	言語

ぶらり選書 2学年 笹城戸先生

『ケーキの切れない非行少年たち』

宮口 幸治著

「突然ですが質問です。(ホール)ケーキを3等分、5等分するには、どのように切ればよいですか？」

できましたか？答えは3等分ならベンツのマークのように、5等分なら、星の先端から中心に向かって切る切り方になると思います。

本書のテーマは「非行少年たちの考え方、もののとらえ方」です。少年院にいる子たちは、先程みなさんに質問したケーキを等分にする問題や、複雑な図形の模写、小学生レベルの計算や漢字ができない子がほとんどです。このことから、著者は「世の中の事全てが歪んで見えている可能性がある」と考え、非行の原因になっていると直感したそうです。

よくニュースで同じ人が事件をおこし、逮捕されたという報道を見かけることがあると思います。なぜ、「一度逮捕されて自分の罪を反省したから出所したのにまた捕まるようなことをするのか？」と思う方も多いのではないのでしょうか。

それは、「物事を正しく捉えられない」ため、自分の罪に対して正しく向き合えず、異なる理解をしている可能性があるからです。つまり、日本語がわからない外国人に日本語で語りかけているようなものです。

そういった「非行少年たちの考え方、もののとらえ方」という視点から新しい見識を深めることのできる1冊です。是非、みなさんの「考え方」とは違う「考え方」に触れてみてください。